コミュニケーションが環境配慮行動に及ぼす影響

日中独の大学生を対象として¹

○安藤香織¹・安達菜穂子²・大沼進³

(¹奈良女子大学生生活環境学部・²大阪市立大学文学研究科・³北海道大学文学研究科)

キーワード: コミュニケーション、環境配慮行動、国際比較

The effect of communication on pro-environmental behaviors

Comparing the university students of Japan, China and Germany

Kaori ANDO¹, Nahoko ADACHI² and Susumu OHNUMA³

(¹Nara Women's University, ²Osaka City University, ³Hokkaido University)

Key Words: Communication, Pro-environmental behaviors, Cross-cultural comparison

問題

本研究では、友人など身近な人やマス・メディアからのコミュニケーションが省エネ行動に及ぼす影響を日本、中国、ドイツの大学生を対象として検討する。マス・メディアが環境配慮行動に及ぼす影響については、一定の効果があるとした報告(Syme et al., 1987)、効果は限定的であるという報告など(Constanzo et al. 1986, Stern, 1999))が見られる。一方、身近な人とのコミュニケーションは情報のみでなくその行動が期待されているという規範的影響も媒介すると想定されること、準拠集団からの情報は好意的に評価されることから、影響が強いと予想される。

行動の規定因としては、これまでの研究より、個人の価値を重視するドイツでは個人的規範の影響が相対的に強く、他者との関係を重視する日本、中国では他者からの期待(主観的規範)の影響が強いと予想される。

方法

手続き 日本、中国、ドイツの大学生を対象に、質問紙調査を実施した。中国、ドイツでは研究協力者が質問紙の配布・回収を行った。

有効回答数 日本: 611 票, 中国: 184 票, ドイツ: 296 票

質問紙 始めに、日本語で質問紙を作成した。それをもとに、その言語を母国語とするものによって中国語、ドイツ語の質問紙の作成を行った。英語版は調査代表者及び協力者によって翻訳を行った。

①行動: 省エネ行動の実行度を各 1 項目で尋ねた。②認知変数: 個人的規範, 主観的規範, 深刻性認知, 対処有効性, 身近な他者とのコミュニケーションを各 2 項目, マス・メディアとの接触、行動統制感を 1 項目で尋ねた。

結果と考察

本研究では、図 1 のモデルを共分散構造分析の他母集団の同時分析により検討した (CMIN=589.70, df=160,

CFI=.900, RMSEA=.050)。

コミュニケーションの影響

身近な人とのコミュニケーションは 3 カ国で対処有効性・深刻性認知・主観的規範に正の影響を与えていた。ドイツでは行動統制感に負の影響を与えていた。全体的にドイツの係数が最も高い傾向にあった。

マスメディアとの接触は 3 カ国で深刻性認知に正の影響を与えていた。また日本以外の 2 カ国において、有対処有効性に正の影響を、行動統制感に負の影響を与えていた。主観的規範にドイツでは負の影響を、中国では正の影響を与えていた。全体的に身近な人とのコミュニケーションよりも係数が低かった。

行動の規定因

行動統制感が 3 カ国とも省エネ行動に有意な影響を与えており、係数が最も高かった。個人的規範は日本、ドイツでのみ有意な影響を及ぼしていた。主観的規範の影響は相対的に小さく、日本でもその影響が見られなかった。

3 カ国ともマス・メディアよりも身近な他者とのコミュニケーションの方が各変数への影響が大きい傾向が見られ、友人や家族との会話が省エネに関する認知に影響を及ぼしていることが示唆された。特にドイツにおいてその影響が強かった。

図 1 分析のモデル図

¹ 本研究は文部科学省科学研究費(若手 B 23700859, 研究代表者: 安藤香織)により助成を受けた